# NTS物語

## 一、本を作り始めた頃

吉田　隆

### ⑦再スタート

創業にあたり、フジテクが所有する全名簿の貸与を受け書籍の優先的販売権を貰った。その名簿を使って、お互い毎月二本のセミナーを開催することが私と○○君二人の共同経営者のノルマだった。セミナーは、二十名の集客を当面の目標とした。先端技術セミナーのプロの条件はコンスタントに二十名集めることである。三十名集め続けることは容易なことではない。二十名は努力でどうにかなるが、三十名は才能がものをいう。これはセミナーの参加費五万円とともに昔も今も変わらない。二十名分の売上百万円から講師料、会場費等の原価やDM約三千通分の経費等を差し引いた残りは僅かである。そこから人件費、家賃等の一般管理費を差し引くと残るものも無くなるから月一本のセミナーでは企業としては成り立たない。そこで毎月二本をノルマとして課すのである。しかし、それでは生活するだけでやっとで、その他DMに相乗せする数点の書籍の売上が企業としての蓄積につながる。書籍の売上はセミナー二回分月六千通のDMの約一％の五十冊を見込んだ。一冊五万円の書籍価格も三十年程変わっていない。仕入価格として五十％をフジテクに支払っても相応のものが月々蓄積されるだろう。それを二人で行うのだから旅立ちは順風満帆のはずであった。しかし、現実はそううまくはいかなかった。

私自身について言えば、創業から一年間は、背水の陣の思いで死に物狂いで企画に集中した時期であった。月二本のセミナー開催を維持した上で、集客数の平均は丁度三十名だった。この年に限るならば、どうにか小野社長や先輩でR&Dプランニングの山本社長等一流の企画屋の仲間入りが出来る数字であった。また、企画に集中したことで企画というものを身体で覚えることができた時期でもあった。企画に従事する者に限らず、人生の一時期気力、体力を限界まで使い切るという経験を持つことがその後の仕事や人生に大きな影響を与えることになると思う。そうした経験に支えられ十分時間を与えられた企画は必ず当たるものであるという私の信念はこの時期の経験に培われたものである。

だが、セミナーという仕事にはどうしても適性が伴う。ニーズを読み取るカンのよさや選んだ情報にアプローチする機動力。その後の企画をまとめるスピードと集中力。満員電車の中でもDM用の名簿付けに没頭する根気等々が求められる。逆に言えば、小野社長の口ぐせ「変り者でないとセミナー屋は勤まらない、常識人には勤まらないんだ」ということになる。言い換えれば「職人気質」ということだろうか。後に「職人」とは正反対の方法論を持つセミナー屋のグループと出会うことになるが、○○君は常識人から抜け切らなかったのだと思う。一年間を通してのセミナーの成績は大きく明暗を分けてしまった。その間会社は借金を重ねること度々で、とうとう創業後およそ半年経過した頃、二人で売上を分けて管理することにした。その管理が大変煩雑な作業となった。経理の○○さんは結婚退社し、変わったばかりの○○○○さんに随分苦労をかけてしまった。あれこれ考えた末、結局別会社を興すこととした。ビジネス以外の余計なことに無駄な時間を費やすよりはまず行動が先と考え、昭和六十（一九八五）年四月○○さんと○○さんの二名を連れて文京センタービルを後にした。その際、借金の半分と代表電話番号だった03－3814－3511を持って出た。この電話番号は後楽園近くの生川（なるかわ）電話商会に依頼したものである。まだ、本郷スカイビルに間借りしていた頃のある土曜日生川社長が来社し、新しく会社を作るのでいい番号をお願いしますと頼んだ時の私の気概を計るような眼差しを思い起す。しばらくして、いい番号がとれましたよと電話を貰った。私にはその番号にこだわりがあったので多少の犠牲を払ってでも持って出るつもりだった。その代わり、ニュー・テクノロジーアンドサイエンスというブランドとオフィスは○○君が手放さなかった。

新会社の社名は、それまで略称として用いていた㈱エヌ・ティー・エスとし、以降私と○○君が互いに相手の社名を使用しないこととした。新会社は再び春日通りを越え本郷三丁目の一角にある盛和ビルに居を構えた。設立は三ヵ月後の昭和六十（一九八五）年七月のことである。第一回「①戦争」の舞台でもあるエレベータのない四階建のビルの最上階で七坪ほどの広さだった。真四角の何よりも明るい部屋が気に入ったが、初めから借金のハンディーを背負い、再スタートの余韻に浸っている間はなかったのである。

# 掲示板

### 今月の人事

三月三十一日付退社　営業部
四月一日付入社　営業部
四月一日付異動　編集企画部
科学技術情報部　部長
業務プロジェクト部　リーダー
四月一日付転籍　NSハイテック
四月八日付入社　営業部
編集企画部
四月二十日付退社　営業部
四月二十日付退社　営業部

### 社内清掃について

次の日程で、本社事務所内の床掃除を行ないますので宜しくお願い致します。当日休日出勤の予定がある場合は作業に支障がありますので、必ず総務部に連絡して下さい。

四月二十五日（日）
五月二十三日（日）

### 編集後記

入学入社シーズンの四月。NTSニュースも衣替えです。いままでの活字がギュウギュウに詰まった紙面から、ゆったりとスペースを取り、写真やイラストを多く掲載し、読みやすい紙面にいたしました。いかがでしょうか。（伊）

NTSニュース一九九九年四月号（通巻十号）
一九九九年四月二十五日発行